

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーに輝きを
Light Up Rotary



寛容の心で、
ロータリーの輪を広げよう

国際ロータリー会長 ゲイリー C. K. ホアン 2014～2015
富津中央RC会長 若鍋 武良
国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2388 第39回例会 2015. 4. 23 晴

点 鐘：若鍋武良 会長
進 行：高島治雄 副SAA
ソング：それでこそロータリー

会長挨拶

若鍋武良 会長



皆さん今日は。

新入会員を紹介致します。獣医師の山下厚さんです。山下さんは3月末まで南部家畜診療所の所長としてご活躍されておりました。推薦者は白石幸久会員です。宜しくお願い致します。

ロータリー一言

「ロータリアンであったカーネル・サンダース」街中で見かけるケンタツキー フライドチキン店に「カーネル・サンダースの人形(立像)」が置かれています。サンダース人形には、ロータリーの徽章が付いています。

カーネル・サンダース(Colonel Sanders 1890年～1980年)は、ケンタツキー フライドチキンの創業

者として世界的に知られるアメリカの実業家で、ロータリアンでした。本名はハーランド・デーヴィッド・サンダースですが、日本では「カーネルおじさん」や「ケンタツキーおじさん」の愛称で親しまれています。「カーネル」というのは名前ではなく、ケンタツキー州に貢献した人に与えられる「ケンタツキー・カーネル」という名誉称号に由来するそうです。

サンダース少年は6歳の時に父親を亡くしたため、10歳頃から働きにで、農場、市電の車掌、セールスなど様々な職を経て、30代後半にガソリンスタンドの経営を始め、40歳の時にガソリンスタンドの一角を借りて「サンダース・カフェ」をオープン。しかし、65歳の時に経営難により閉店を余儀なくされ、殆どの資産を失ってしまったそうです。が、そこからサンダースは再起を図り、世界初となる「フランチャイズ」のビジネスモデルを考案。現在の世界的なビッグビジネスまで押し上げたそうです。

カーネル・サンダース語録

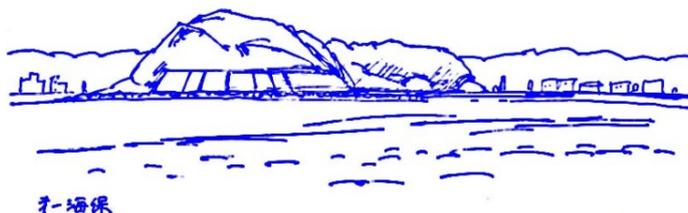
「人生は自分でつくるもの。遅いということはない。」

「他の人に一生懸命サービスする人が、最も利益を得る人間である。」

(One Profits Most Who Serves Best「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」)

「人間は働きすぎてだめになるより、休みすぎてサビつきだめになる方がずっと多い。」

〒293-0042 富津市小久保2868
さざ波館 Sazanami-kan
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,
Zip code 293-0042
Tel.0439-65-3373 Fax.0439-65-3304
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



入会式

推薦者の新入会員紹介

白石幸久 会員



山下厚さんは、長崎県の出身で宮崎大学を卒業して千葉県の家畜共済組合に獣医師として就職されました。現在は自宅で角力灘動物病院を経営しております。山下会員とはそれ以来のお付き合いとなりますので40年弱になります。よろしくお願いいたします。

新入会員挨拶

山下 厚 会員



諸先輩の皆様方に温かく迎え入れていただき、本当にありがとうございました。

主に乳牛が相手の大動物臨床獣医師としてこの3月まで千葉NOSAI連の家畜診療所に勤務していました。婦人科(乳牛では繁殖障害といいます)、産科、外科、内科、皮膚病から眼病まで、何でも診なければなりませんから広く浅く多くの症例を重ねてきました。満足して職業生活を終えることができたことに感謝しています。

時間的余裕のない生活を強いられた38年間でしたが、飽きが来ず、ずっと好きでいられた二つの趣味、大相撲観戦と読書によって日々の生活が随分助けられたと感じています。

神事、芸能、スポーツと三つの面を併せ持つ大相撲。ただスポーツとしての面に焦点を絞っての観方だけでは勿体ないと私は思っています。

また、大相撲観戦同様に向に飽きが来ない読書ですから、本は私にとって一日たりともなくては過ごせないもの。この世にお別れする日まで「添い遂げたい」と念じています。

今後皆様方のご指導をいただきながらロータリアンとしても成長できればと願っています。よろしくお願いいたします。

会長よりロータリーバッジ授与



幹事報告

原田雅式 幹事



1. 4月19日の家庭集会で三枝会員からドンペリを頂きましてドンペリBBQとなりました。A班班長の石渡会員お疲れ様でした。
2. 国際交流協会から総会の案内が来ております。
平成27年5月16日(土) 総会 午後1時30分
講演会午後3時00分
懇親会午後4時30分
3. 富津シティロータリークラブより会報が届いております。 回覧します。

委員会報告

刈込八束 会員



刈込会員より当館の「さゞ文庫」の紹介がありました。以下に若鍋会長が書かれた刈込文庫紹介を掲載いたします。

『さゞ波文庫』が完成、小さな図書室に優しい光！

「新千葉新聞」4月3日号に、当クラブの例会場である「さゞ波館」の『さゞ波文庫』完成を伝える上記タイトルの記事が掲載されています。図書室内には、先代の館主・元富津市議で元当クラブ会員であった故刈込碩弥氏が愛読した書籍千冊以上を収録。書籍は古文書、文学・歴史ものなど多岐にわたるそうです。またこの部屋の高窓部分には、「木更津温泉ホテル」の建物内一階部分に設置されていたステンドグラスが取り付けられており、鮮やかな色ガラスが優しい光を映し出しています。

(資料提供 刈込八束会員)

AB 班合同炉辺会合の報告

石渡 鋼 会員



さる4月19日、心配していたお天気ではあったが、花曇りの朝が明け、これなら何とかできるかと、一安心。何しろ家庭集会(炉辺会合)をBBQ形式それも拙宅、裏山の標高70mの崖地でやろうという、危なげな企画である。もし途中で大雨でも降りだせば、焼肉鉄板はシャブシャブ鍋状態、タレ皿は天つゆか、もしくはそばつゆ状態となることは必須、ズブ濡れの皆の姿は想像するだに気の毒というほかはない。こんな企画誰がしたということになる。そんな危惧を押しての家庭集会ではあったが、仕かけた雨除けテントを張り損ねる間に小糠雨は止んでくれた。全く際どい天候のなかで行われた。

こんな状況下、本会合のテーマ「創立50周年について」「会員増強について」の2大協議をと目論んだ亭主ではあったが、遠くに鹿野山と鬼泪山の稜線、近くに某ゴルフ場のコースと田植え真近い水田の反射の景色、そして何よりも身边を囲む雑木林の芽吹きに、はたまた男心を擽る妖艶さに酔いしれた

のか、話題は多事総論、論壇風発、あらぬ方向に盛り上がっていった。これはとりもなおさず二兎を追った愚生の思惑いや企画の不味さ、しかしそんな中でも、ある会員がぼつりと言った一言「創立50年、チャーターメンバーが居るんだよなー」。



炉辺会合で三枝会員1句

「惜春の宴の後の山の雨」 かずを。

卓話

ロータリアンの考え方

高橋裕之 会員



皆さんも同様ですが、生きる上で人は、多くのコミュニティ、組織、団体などの集まりに所属しています。地域の集まり、会社などの同僚の集まり、業界の集まり、法人会や商工会の集まり、神社の氏子の集まり、寺の檀家の集まり、同窓生の集まり、同級生の集まり、趣味の集まり、取引先の集まり、子供会やPTAの集まり、etc. 数え上げると、キリがないほど様々な集まりがあります。

そして、それぞれの集まりの中では、会議や話し合いが行われます。そんな時、気付く事があります。我々ロータリアンはそのような時に、自然に四つのテストに照らし合わせ、真実かどうか、みんなに公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるかどうかと考えていると。

何故気付くかという、異なる考え方の意見を聞くからです。先日の業界団体の集まりでの話です。私の所属する業界では、時折、国土交通省や厚生労働省、県、市からの指導や規制などがありますが、それを早く知る立場にある者が、所属する会員に伝える際の方法を確認しておりました。ロータリアンである私は当然のように、真実を、みんなに公平に、好意的に、みんなのためになるように伝えるのですが、伝える内容や方法は一緒でも、後で何か言われると困るからとか、伝えるだけ伝えておけば後は自己責任だとかいう考え方で伝えている人が、意外に多いのです。

結果の前にそれに至る際の考え方が大事だとも云うような、如何にも日本人的な発想かもしれませんが、これは、紛れもなくアメリカで生まれた、国際ロータリーに採用された考え方です。

そんなことを入会して間もなく24年経つ私が、今更ながら気付くようになりました。我がクラブ初代会長の笠原語録の中に「ロータリーは体得するものだ」とありますが、今頃体得とは、いくら何でも遅いですが、「四つのテスト」は今後とも全ての言行に照らし合わせて実践していきたいと思えます。

本日は、山下さんの入会式なので、改めて「四つのテスト」の資料を配らせていただき、卓話に代えさせていただきます。

配付された資料は、ダレル・トンプソン(米国カリフォルニア州モローベイRC)著で「四つのテスト その由来をひもとく」でした。紙数の関係で掲載できませんが、是非一読を！

コンピュータと囲碁

須藤 隆 会員

今でこそコンピュータという言葉は、私たちに大変身近に感じられますが、コンピュータという言葉を知ったのはいつごろからでしょうか。大雑把に汎用コンピュータ発展の足跡を追ってみたいと思えます。



そもそもコンピュータの語源はなんでしょうか。自動計算機が開発される前、ほとんどの計算は人間が手で行っており、算術計算

をすることを生業とする人のことを英語でコンピュータと呼んだそうです。

コンピュータが初めて商品化されたのは1950年代ですが、1943年から1945年にかけて開発された世界最初の電子式汎用コンピュータは、重量が30トンもある巨大マシンで、真空管を18,000個以上も使用したそうです。1951年に世界最初に量産された商用コンピュータの1台の価格が100万ドル以上で、真空管を5,200本使用したと記録されています。

コンピュータ発展には10年ごとに節目がありました。1950年代の電子計算機には、電気回路の素子として真空管が使用されました。真空管を用いた電子計算機を第一世代と呼び、10年後の1960年代には、真空管に代わってトランジスタが電気回路の素子として用いられるようになり、これを第二世代のコンピュータと呼びました。

1970年代に入ると、半導体素子による集積回路が開発され、コンピュータはそれまでのものと比較にならないくらい小型化されてきました。

半導体は1970年代から2010年代の40年間でシリコンサイクルという言葉があったように4年に1度の大きな技術イノベーションが繰り返され、その度に半導体メーカーは大規模な設備投資を繰り返し、微細化された素子の容量は飛躍的に増大しました。1970年代から80年代にかけて半導体を用いたマイクロコンピュータ(マイコン)がコンピュータ愛好家の間で普及するようになり、任天堂のファミコンが発売されたのは1983年でした。1990年代にはマイクロソフトのOSが市販されるようになり、パーソナルコンピュータ(パソコン)が出回りました。1995年にマイクロソフトから発売されたウィンドウ95のOSソフトが発売されるとパソコンは一気に普及し、それまで文書作成専用機としてワープロが普及していましたがワープロは自然淘汰されパソコンに代わって行きました。

2000年代に入ると今や10万分の1nm(ナノメートル)の精密度で半導体回路の線幅を形成することのできる精密技術が確立され、半導体チップの記憶容量は想像を超える膨大なものとなりました。

私たちの身近にある通信機器、家電製品、自動車、医療機器等はコンピュータと切っても切り離す

ことはできません。私たちが半導体や、コンピュータについて全く知識がなくても通信機器や家電製品を自在に使いこなすようになっております。また医療の分野ではほとんどの体内検査はコンピュータで画像処理が行われ、医師は医療に関する判断をコンピュータに頼っている部分がかかなり多くなっていると思います。近い将来コンピュータ制御で駆使された対話のできるロボットが商品化されるでしょう。好むと好まざるにかかわらず今以上に私たちの生活にコンピュータが入り込んでくるでしょう。

ここでコンピュータが囲碁のようなゲームの領域にまで浸透していることを話してみたいと思います。今の半導体回路が出現する以前から計算の分野ではコンピュータが人間を凌駕しておりましたが、高度な頭脳ゲームに関してコンピュータは人間にはとても及びませんでした。ところが、コンピューターハードの高性能化と相まってコンピュータソフトの改良によりコンピュータも頭脳ゲームで人間と勝負するようになりました。先ず、チェスでは、ほぼ20年前に米国 IBM が開発したコンピュータソフトが当時のチェスの世界チャンピオンと勝負して勝利し、世界的なニュースになりました。その時チェスの世界ではすでにコンピュータが人間の頭脳に追いついたと喧伝されました。それから俄然、将棋と囲碁との勝負はどうかに関心が移りました。コンピュータがチェスで人間を負かした当時もすでに将棋や囲碁で人間と対戦するソフトは開発されておりました。将棋に関してはアマチュアの初段程度で、囲碁に関してはまだ人間と勝負できるほどではありませんでした。それでもコンピュータのソフトは研究に研究を重ねられ、昨年行われたプロ棋士とコンピュータソフト(電腦)の対抗戦では、コンピュータソフトがプロに勝ち越しました。今年の4月に行われたプロ棋士と電腦との対抗戦ではプロ側が巻き返し辛うじて3勝2敗で勝ち越したと新聞に報道されていました。このように将棋においてはコンピュータが人間の最高頭脳に追いつきつつあるのです。

それでは囲碁はどうでしょう。囲碁のコンピュータソフトもここ数年で急速に力をつけてきました。それでもコンピュータの能力はプロ棋士のレベルには達しておりません。囲碁は将棋よりはるかに手の組み合わせが多いことから、さすがのコンピュータもいま

だにプロとは対等に戦って勝てません。因みにチェスと将棋と囲碁の手数の組み合わせはチェスが 10^{120} 乗、将棋が 10^{200} 乗、囲碁が $10^{300\sim 760}$ 乗といずれも天文学的な途方もない数値です。中でも囲碁は手数の組み合わせではチェスと将棋を圧倒しています。それでもコンピュータのソフトは急激に進歩し、アマチュアレベルの高段者とは互角に近い力を付けつつあります。恐らくあと10年ぐらいでプロに追いつくだろうと言う人もいます。なにしろコンピュータは1秒間で数百万手を読むと言われております。読む量とスピードではコンピュータには全く歯が立ちません。それでも囲碁に関して、まだコンピュータが人間の最高頭脳には追いつけないのは囲碁が計算と読みだけの世界でなく右脳的な感性を必要としているからでしょう。いずれコンピュータが囲碁のプロ棋士に勝つときが来るかもしれません。しかしたとえコンピュータが人間に追いつこうとも、人間同士での対局がお互いの心を通わせ、技量を超えた人間力の発露であることを思うと、囲碁は神が与えた素晴らしいゲームであり、これからも私たちの心を豊かにする囲碁の魅力が尽きることはないと思います。

先哲の教え

三枝一雄 会員



前々回の例会で原田幹事さんから、上総湊の山奥?のある区長さんのお宅を訪問した処、片側が山、片側は断崖絶壁で道幅が狭くて命からがら帰ってきたという話がありました。その後、偶然次のような話を聞いたので報告します。

「世間の役に立つものの必要は知っていても、役に立たないと思われるものが、実は非常に大きな役割を果たしていることを知らない。例えば、車が走るのに車幅とほぼ同じ幅の道路でも走れるはずだが

怖くてとてもスピードを出して走れない。ところが、倍以上、さらに広い道路であれば安心して走れるのだ。広い道路の片隅は一見、無駄なように見えても、実は大変有用なものであることに気づいていない。」という話でした。それについて、次のような「文献」が紹介されていました。

『有用の用は知れども、無用の用を知る事莫し』
(莊子:内篇)

以上、原田さんは先哲の教えをよく体験したことになります。ロータリーの実践にも大切なことだと思います。

ニコニコ BOX

鈴木 勉 親睦担当委員



若鍋武良 新会員山下さんをお迎えして
 原田雅式 " "
 平野安照 " "
 白石幸久 " "
 榎本守男 " "
 高島治雄 " "
 大網庄一郎 " "
 小野恒靖 " "
 高橋裕之 " "
 千葉一利 " "
 須藤 隆 " "
 石渡 鋼 19日の炉辺会合に多くの方に出席
 いただき有難うございました。
 刈込八束 文庫の記事が「千葉日報」に掲載さ
 れて

合計 13,000円

出席報告

金子光晴 出席担当委員

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	27/25	19	6		76.00%
前回	26/22	18	4		81.82%

4月24日、女子会 山田会員の陶芸工房を見学



C班の炉辺会合

4月26日(日)に「勘七」でC班の炉辺会合が AB班に1週間遅れて開催されました。参加人数は9名で、特に若手の金子会員と平野会員及び入会したばかりの山下会員が参加し、大変フレッシュな顔ぶれでした。テーマは増強ということでしたがフレッシュマンを意識して、ベテランの人にそれぞれのロータリーの思いを語っていただき、ロータリーでの経験が各々にとっていかに貴重であったかを語っていただきました。さらに全員の方にそれぞれのロータリー感を話してもらい、和気あいあいとした雰囲気、大変有意義な炉辺会合だったと思います。

(須藤記)

